

| | | | |
|-----|----------------------|-------|-------|
| 科目名 | 文学 I Literature I | 科目コード | 10430 |
|-----|----------------------|-------|-------|

| | |
|----------|-------------------------|
| 学科名・学年 | 機械工学科・4年（プログラム1年） |
| 担当教員 | 猪平直人・堀口真利子（一般教育科） |
| 区分・単位数 | 履修単位科目・選択・1単位 |
| 開講時期・時間数 | 後期, 30時間【内訳：講義28, その他2】 |
| 教科書 | 担当者が指示する教材・担当者によるプリント |
| 補助教材 | 担当者によるプリント |
| 参考書 | 国語辞典・古語辞典等 |

【A. 科目の概要と関連性】

担当者の選んだ日本の文芸作品を講読する。担当者による講義と、受講者による発表形式を併用し、文芸作品のより深い鑑賞を通して、日本人の築いてきた伝統的な価値観や、精神性についての理解を深める。

○関連する科目：国語(1～4年)・日本語文化（専攻科1年後期）

【B. 「科目の到達目標」と「学習・教育到達目標」との対応】

この科目は長岡高専の教育目標の(A)と主体的に関わる。

この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下の表に示す。

| 科目の到達目標 | 評価の重み | 学習・教育到達目標との関連 |
|----------------------------------|-------|---------------|
| ①古典文学・現代文学に関する基本的な読解力・鑑賞力を身につける。 | 35% | (a1) |
| ②日本的・伝統的な思考様式を理解する。 | 35% | (a1) |
| ③論理的な文章を書く能力と、基本的な口頭発表の能力を身につける。 | 30% | (b1) |

【C. 履修上の注意】

受講者による口頭発表を行う（受講者全員）。市販のテキストを使用する場合は、担当者が支持するので、各自購入すること。

配布されたテキストや教材を事前に読み、予習しておくこと。必要に応じて、国語辞典・古語辞典を持参し、適宜利用すること。

【D. 評価方法】

次に示す項目・割合で達成目標に対する理解の程度を評価する。60点以上を合格とする。

- レポート（60%）
- その他（40%）

【E. 授業計画・内容】

● 後期

| 回 | 内容 | 備考 |
|----|------------------------|----|
| 1 | ガイダンス・発表形式の確認と発表担当者の決定 | |
| 2 | 近現代文芸作品講読（1） | |
| 3 | 近現代文芸作品講読（2） | |
| 4 | 近現代文芸作品講読（3） | |
| 5 | 近現代文芸作品講読（4） | |
| 6 | 近現代文芸作品講読（5） | |
| 7 | 近現代文芸作品講読（6） | |
| 8 | 近現代文芸作品講読（7） | |
| 9 | 古典文芸作品講読（1） | |
| 10 | 古典文芸作品講読（2） | |
| 11 | 古典文芸作品講読（3） | |
| 12 | 古典文芸作品講読（4） | |
| 13 | 古典文芸作品講読（5） | |
| 14 | 古典文芸作品講読（6） | |
| 15 | 古典文芸作品講読（7） | |